

トラン バオ クイン

ベトナム出身

上智大学 グローバルスタディーズ研究科グローバル社会専攻 修士課程

今までの引っ越しについて

2年間の大学院生活が終わりに近づき、7月から引っ越しの準備をし始めました。荷物を減らすために、部屋の中の不用品を処分したりしているので、今回は日本での引っ越しの話をシェアしていきたいと思います。

日本に来てから、私は引っ越しを4回経験しました。立命館アジア太平洋大学に通った時、寮で3年間生活していましたが、寮内に3つの部屋も変えたことがあります。私が住んでいたそれぞれのフロアに対して、特別な思い出を持っています。一つ目のフロアでは、親元を離れてはじめての一人暮らしの日々を送っていました。そこで、2016年の熊本大震災を体験し、緊急事態に対して日本人の冷静な対応方法が印象に残っています。その地震の体験がきっかけで、寮生に安全で安心な生活を提供したいと思い、寮長に応募しました。私は外国人の寮長なので、もう一人日本人の寮長と組み、寮生と共に寮で生活し、約30人いる一つのフロアを担当しました。

新人の寮長として担当した時のフロアはとても穏やかでした。7割の寮生は大学院生の方なので、まじめに学業に取り組む方が多かったです。他のフロアに比べて、イベントの計画が盛んに取り組まれていないかもしれませんが、よく大学院生の方々に料理を作っていただけ、優しく接してもらいました。そして、

寮での最後の6ヶ月は、他の男女のミックスフロアに移転し、周りの寮生は「ウィンドおねえちゃん」と呼んでくれました。特に、そのフロアの日本人は英語学習のモチベーションが非常に高く、台所のテーブルで皆がよく英語授業の宿題のディスカッションや、私との英会話練習に力を入れた寮生が多くいました。この一年間に、生活と学業の面から多くの寮生をサポートすることで、新しい友達を作ることができました。

大学自体とその寮が山の頂上にあるため、寮から離れると、「下界に引っ越す」と言います。私は、寮長を卒業してから、もう一人の友人と一緒に下界に1年間住みました。私たちが選んだ2階建ての2階にある2DKの部屋は住みやすかったですが、隣人と騒音のトラブルが起きました。その部屋の床と壁は、部屋内に普通に歩いても足音が聞こえるくらい薄いかった。入居してから、それに気づき、生活の中にスピーカーで音楽を流したり、大声で話したり笑ったりしないようにしていましたが、何回かクレームをうけました。この経験から、内見時に音のチェックは怠らないように心掛けています。

東京に引っ越してから、また寮の生活に戻ったが、あっという間に退寮の時期になりました。卒業後の新居についてはまだ固まっていませんが、また新しいチャレンジや発見と良き出会いがあると思います。